

2024年総合生活改善 第4回中央戦術委員会 ＜確認事項＞

自動車総連は、第4回中央戦術委員会において以下の通り、自動車総連一体となって取り組みを進めていくことを確認した。

■回答引き出し状況

＜月例賃金＞

- ・個別賃金については、586組合が要求し、現時点において69組合が回答を引き出している。
- ・平均賃金については、賃金カーブ維持分と賃金改善分を合わせた引き上げ額全体の平均は13,634円となっており、1976年以降で最高額となる。賃金改善分の平均獲得額は9,304円、獲得組合は97.1%となっている。

＜年間一時金＞

- ・年間協定による回答を引き出した246組合における年間回答月数の平均は4.93ヵ月である。

＜働き方に関する取り組み＞

- ・全ての職場で誰もが働きやすい職場環境の実現や職場風土の改善、職場コミュニケーション不足の解消などを中心に論議の結果、生産性の向上に繋がる働き方や職場課題の解決に向けた取り組みが進められている。

＜企業内最低賃金＞

- ・129組合において協定締結水準の引き上げが行われ、その平均額は180,197円となっている。

＜非正規雇用で働く仲間の取り組み＞

- ・賃金回答の平均額は時給59.9円（昨年同時期41.3円）であり、それ以外の組合においても正規社員と同等の引き上げが行われている。目指すべき賃金水準の実現や、足下の物価上昇を踏まえた賃金等の処遇改善に繋げることができている。

＜価格転嫁などの企業間取引に関する取り組み＞

- ・メーカー等大手の経営者による価格転嫁に対する前向きな考え方を、労使でグループ内に共有することで加盟組合の取り組みの後押しとする等、価格転嫁の取り組みが徐々に広がりを見せている。

■確認事項

<交渉状況>

- 自動車総連全体では、要求提出済みの1,027組合中、210組合（20.4%）で妥結又は妥結方向に至っている。
- 日本経済の好循環や物価上昇から生活を守る観点、産業・自社の魅力向上の観点を踏まえた「自ら目指すべき賃金水準」の実現に徹底的にこだわり最後の最後まで粘り強く交渉を実施した。激化する競争環境の中で生き残っていく覚悟を労使で確認できたからこそ、今回の回答を引き出すことができたと認識している。
- 一方、これから本格化していく車体部品・販売・輸送・一般の各業種の中小組合の交渉に向けては、経営側は厳しい姿勢を示すことが予想される。今回、先行組合が導いた結果と論議内容を土台として、下記の観点に基づき徹底した論議を進め、回答引き出しに向けて追い上げを図っていく。

<今後の進め方>

各組合・労連及び自動車総連本部は、現在の交渉・回答状況を認識した上で、これから交渉がヤマ場を迎える中堅・中小組合の最大限の回答を引き出すべく、自動車総連に集う全ての組合の思いを一つに、最後まで粘り強く交渉を追い上げていく。

<全体>

- 中堅・中小組合の取り組みにおいては、直面する交渉環境の厳しさを改めて認識した上で、第3回中央戦術委員会（3/9）にて確認した「回答引き出しに向けた基本態度」のもと取り組みを進める。
- 年間一時金については、組合員の、より一層の安心・安定感の確保に繋げるべく、年間協定にこだわって交渉を進めていく。
- 解決時期については、集中的な回答引き出しによって共闘効果を高めるべく、自動車総連全体の目標である3月末決着を強く意識して取り組む。回答引き出しが遅れる場合においては、一日でも早い解決に取り組み、遅くとも4月末までには全ての組合で決着を図る。

<各組合>

- 現在も交渉が続いている全ての組合は、「回答引き出しに向けた基本態度」に則り、「自ら目指すべき賃金水準」の実現に徹底的にこだわり、その要求を満たす回答を引き出すべく、最後の最後まで交渉を追い上げる。

<各労連及び自動車総連本部>

- 各労連は、加盟する中堅・中小組合のそれぞれの要求項目に対する「最大限の回答」引き出しに繋げていくべく、価格転嫁をはじめとする取り組み好事例等をタイムリーに共有するなど、具体的な戦術やサポートを展開する。
(特に#1中戦委で確認したきめ細かな対応を要する対象組合)
- 自動車総連本部は、各組合・労連の取り組みを後押しすべく、回答引き出し状況について、組織内外にタイムリーかつ効果的な情報発信を行う。

■ 回答引き出しに向けた基本態度 (第3回中央戦術委員会<確認事項>再掲)

- 自動車総連は、最大限の回答を引き出すべく、自動車総連一体となって最後の最後まで粘り強く交渉を迫り上げていくことをここに確認する。

<月例賃金(個別賃金要求・平均賃金要求)>

- 全ての組合は、日本経済の好循環や物価上昇から生活を守る観点、産業・自社の魅力向上の観点を踏まえた「自ら目指すべき賃金水準」の実現に徹底的にこだわり、その要求を満たす回答を引き出すべく、最後の最後まで交渉を迫り上げる。

<働き方の改善>

- 全ての職場で誰もが働きやすい職場環境の実現や職場風土の改善、生産性向上に繋がる働き方などの回答を引き出すとともに、今後の継続的な取り組みに確実に繋げる。

<年間一時金>

- この一年間の組合員の努力・頑張り・成果に報い、今後の取り組みに向けた更なる意欲・活力に繋げていくためにも、満額獲得に向け最後まで押し込む。
- 組合員の生活の安心・安定感の観点から、年間協定にとことんこだわる。
また、業績を意識した付帯事項付き回答は望ましくないとのスタンスで取り組む。

<企業内最低賃金>

- 企業内最低賃金の引き上げが、非正規や未組織で働く仲間にも波及し、魅力ある自動車産業の構築や社会全体の底上げ・底支えに繋がることを強く意識し、協定の新規締結・水準の引き上げ・対象者の拡大に向けた最大限の回答を引き出す。

<非正規雇用で働く仲間に関する取り組み>

- 一般組合員との関連性を強く意識し、同一価値労働同一賃金の考えのもと、自ら取り組むべき賃金水準の実現を着実に進める。
- 賃金改善については具体的な有額での回答引き出しを図り、同じ職場で働く仲間の意欲・活力の向上に繋げていく。

<早期決着に向けた取り組み> ※2月5日 第1回中央戦術委員会<確認事項>再掲

- 自動車総連全体のヤマ場を3月13日(水)から3月22日(金)までとし、この間で、各組合・労連は、集中的な回答引き出しに最大限努力する。
- 主要組合における集中回答日は3月13日(水)とし、午前中に要求項目の同時回答を引き出す。
- 全ての組合は3月末解決を目指し、遅くとも4月末までの解決に強力に取り組む。
- 販売部門については3月末解決を目指し取り組むとし、3月末解決が難しい組合においては、一日でも早い解決を目指す。(販売部会確認事項)